



2023 年度
第 20 号

体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？

20cm バスケット球
移住青少年と
韓国をつなぐ



スポーツは基本権……
韓国のすべての
友達が
楽しめるように



スポーツクラブ
登録をめぐる
スポーツ既得権勢力の
巧妙な妨害



みんなのサッカー場
みんなのKリーグ
1泊2日の
サッカークリニック



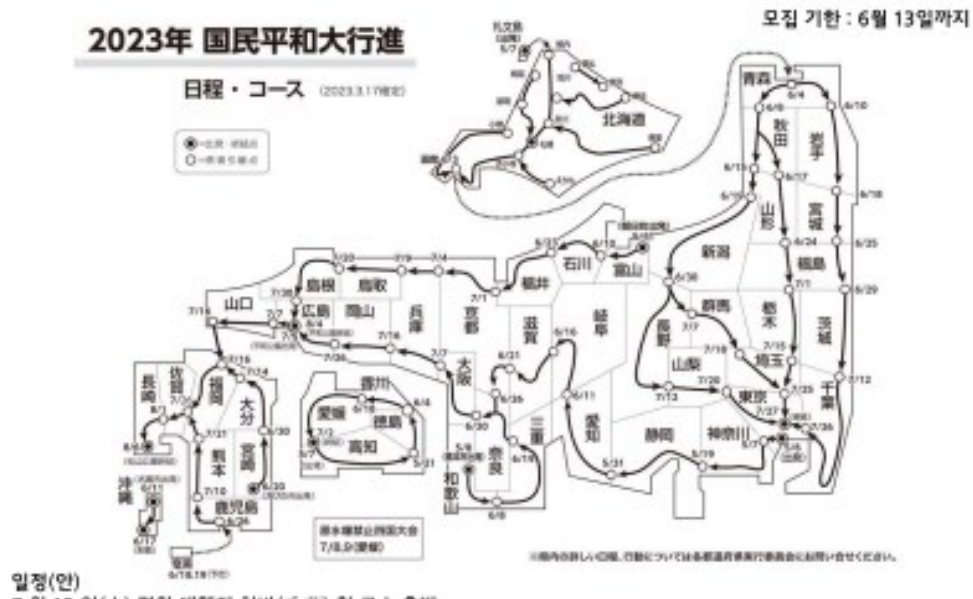
コロナでソウルの
過体重、肥満学生 32.1%
合間合間に
体育の推進



〈2023年国民平和行進に新日本スポーツ連盟から青年参加者の要請〉

신일본스포츠연맹

평화행진마라톤 참가자 모집



01 ハンギョレ 2023.05.19

ハンギョレ創刊企画 - 移住時代、スポーツで境界を越える 20cm バスケット球、移住青少年と韓国をつなぐ



「監督、私たちもバスケットボールをしたいです」

毎週月曜日と水曜日の午後5時30分。ソウル龍山区宝城女子高校の体育館には20人余りの子供たちが集まる。バスケットボールをするためだ。

練習開始前には毎回小さな騒ぎが起こる。背の高い何人かの中学生がチョン・

スギル韓国バスケットボール発展研究所長(62)にせがむ。

中学生の彼らはもうバスケットボール授業に参加できないが、チョン所長はやむを得ず「初等学校の弟たちが怪我をしないように気をつけろ」と許可する。きらめく目に映ったバスケットボールへの情熱に背を向けることができないからだ。

ここに集まった子供たちは、いつもの同年代と変わらない。Instagramにハッシュタグをつけて「セルカ」を載せ、BTSやニュージーンズの歌を流して踊った後、TikTokに載せる。バスケットボール訓練中にも体育館の片隅に集まって好きなアイドルのために投票をする。

チョン・スギル所長が謹厳な表情でせきたてる時には聞こえないふりをして、おやつのお話が出てくれば再び話に集中する。たった一つの違いは、肌の色が色とりどりだという点だ。多文化バスケットボールチーム「グローバルフレンズ」の練習風景だ。

ナイジェリアの両親を持つマイケルズ・ビクトリー（7）も、グローバルフレンズで初めてバスケットボールを手にした。ビクトリーの上にいる兄4人が全員ここでバスケットボールを学んだ。まだ韓国語が上手でないビクトリーにとってバスケットボールはゲーム「ロブボックス」と共に友達と疎通できる数少ない通路だ。初めてバスケットボールチームに来た2月には体育館の隅でバスケットボールをいじっただけだったが、2ヶ月ぶりに練習試合をプレーし正確なパスで助けを記録するほど実力が伸びた。

バスケットボールの授業がない日、ビクトリーは主に一人で時間を過ごす。ビクトリーは「体育館に来ない日にはただ家でテレビを見る」と話した。すると「記者さんは仕事が終わったら何をするのか」と問いつ返す。「家で一人で本を読む」と言うと、心配そうに眺める。

「それは寂しいです。」「今度は必ずロブボックスをやってみて、面白かったか言ってほしい」と念入りに頼んだビクトリーは、弾いていたバスケットボールを持って記者の横に近づき、ワラビのような手でボールを床から3、4周回す。そして話す。「あなたの番です」(It's your turn)

ただ、韓国にいるすべての移住青少年がこのような機会を享受できるわけではない。〈ハンギョレ〉取材を総合すると、移住家庭を支援するソウル25区家族支援センターでも移住青少年対象定期スポーツプログラムがあるところは永登浦区(バスケットボール)だけだ。センターは言語教育・文化体験などに重点を置く。実際、グローバルフレンズ団員の相当数が龍山区ではないソウル市他区や京畿道でロコミを聞いてきた。スポーツの社会的役割に対する悩みが少ない韓国社会の現実だ。

韓国は1962年、国民体育振興法を制定し、本格的なスポーツ政策を展開した。しかし、当時韓国が推進した政策は少数のためのスポーツに近かった。特に1982年に法を改正し「体育を通じた国威宣揚」を追加し、メダルと成績にこだわるエリート体育中心の政策に重点を置いた。続いていわゆる「3S」政策の一環としてプロ野球もスタートした。いずれも政権の必要に応じた決定だった。今も韓国は「スポーツと政治は別」というイデオロギーが強いが、実際の現実とは違ったわけだ。

理想と現実の乖離を論じてスポーツ政策が空転する間、グローバルフレンズは消える危機に直面した。チョン・スギル所長が私財を払いながら運営しているが、彼もすでに60代に入った。チョン所長は「バスケットボールの練習を終えれば子供たちにハンバーガーを買ってやるが、チーズバーガーやプルコギバーガーだけで、セットメニューは注文できないようにしている」として目頭を赤くした。「子供たちに申し訳ない」と人生をバスケットボールに注いで鍛えてきた彼の固い肩が特に小さく見えた。

出典：https://www.hani.co.kr/arti/society/society_general/1091928.html

02 ハンギョレ 2023.05.19

ハンギョレ創刊企画-移住時代、スポーツで境界を越える
「スポーツは基本権……韓国のすべての友達が楽しめるように」



移住民のためのスポーツが定着した欧州にはバラ色の成功事例だけがあるだろうか。「ハンギョレ」は4月29日（韓国時間）から6日間、フランス・パリで移住民当事者に会い、スポーツプログラムにも直接参加した。多様な研究者の意見も聞いた。彼らは現在、欧州政策にも限界があるとしながらも、スポーツだけが持つ可能性を強調した。

フランス市民団体「カブブー」が運営する移住民・難民対象ヨガ授業は4日、パリのダブキルガにある建物で開かれた。パリ市が支援するこの空間は亡命者のためのところだったが、カー夫婦は建物2階でヨガ授業を行った。参加者は記者を除く計4人。2人はフランス先住民、2人は移住民だった。

ヨガを一緒にやってみると、同じ空間、同じ時間を共にしながら連帯感が生まれた。最初は多少ぎこちなかったが、使わない筋肉を使いながらお互いにうんうんとうなるうちに、自然に経験を共有するパートナーになった。警戒していた目つきは、一緒に難しい動作をしながら目を合わせる時、笑いと共に消えた。たった2時間だったが、授業の後には長い友達のように別れの挨拶をした。言葉が通じなくても感じられる共感があった。

参加者の特性に合った種目を選択できるよう多様なプログラムを提供するという点も印象深かった。カー夫婦がパリで開くプログラムだけでもサッカー、バスケットボール、ジョギング、ボクシング、自転車、ヨガ、ステッパー、水泳、ダンス、クライミング、バレーボール、身体遊び、ハンドボールなど13種類だった。このうちハンドボール、サッカー、ヨガ、身体遊びは女性だけが参加できるようにした。

プログラム構成が多様な理由は、フランスが経験した試行錯誤のおかげだ。かつてフランスは移住民一人一人の特性を深く考慮しなかった。特に世俗主義を理由に宗教的な違いを軽視した。しかしスポーツは出身地、宗教、性別、年齢、身体能力などによって効果がまちまちだ。フランスのオパールコースト大学のアレサンドロ・ポロベキオ助教授は「文化別に身体に対する観点が違う」とし、「移住民を単純に現地文化に『統合』する代わりに『包容』しようとするのが重要な理由」と説明した。

フランスでは最近、極右勢力が成長し、移住民関連の葛藤が深刻化している。そうなればなるほど、スポーツの持つ包容性と有用性が重要になる。アンバリド付近でボードに乗っていたマリ系ディアティケ・パノマ（21）とケニア・イタリア系マイナ・グイド（19）は「キリアン・ムバッペがフランス社会で非常に重要な役割を果たしている」とし「スポーツには限界もあるが、私たちはスポーツを踏み台にそれ以上を夢見ることができる」と話した。カタールW杯でフランスを準優勝に導いたムバッペは、カメルーン・アルジェリア系フランス移民2世だ。

パノマもグイドもスポーツが基本権だという点を繰り返し強調した。普段から韓国に関心が高いというグイドは「韓国でスポーツをするためには人生をかけて挑戦しなければならないと聞いた」とし「私たちはひたすら楽しくてスポーツをする」と話した。彼は「フランスでスポーツは人権」とし「韓国にいるすべての友達がスポーツを楽しんでほしい」と話した。ボードに乗って明るく笑う彼の姿はとても印象的だった。

出典：https://www.hani.co.kr/arti/society/society_general/1091926.html

03 スポーツソウル 2023.05.17

スポーツクラブ登録をめぐるスポーツ既得権勢力の巧妙な妨害



고진현의

창(窓)과 창(槍)

開放性が自信の表現なら、閉鎖性の基底には欲と恐怖が敷かれている。ドアを大きく開けておく自信は簡単にはできないが、だからといって欲だけを前面に出して自分の家庭菜園を奪われるのではない

いかという恐れにとらわれては、ややもするとカニも袋も全て逃す愚（訳注：ごくたやすい事でもへまをすること）を犯すこともありうる。

これまで韓国体育は閉鎖的風土で育ってきた。社会と徹底的に有利なまま、さらに激しく言えば「孤立した島」のように存在したと見れば良い。オリンピックなどメガイベントが開かれれば久しぶりに国民と一つになるだけで、その行事が終われば再び「孤立した島」に戻り「彼らだけの社会」として生きるのが韓国体育の構造的弊害だった。

社会から孤立した体育を再び社会に復帰させるためのパラダイムシフトが2016年に断行された体育団体統合だ。エリート体育と生活体育の大統合、韓国体育の構造的変革を念頭に置いた政策的決断は、そのため非常に重要な含意を持つ。

あれから6年余りの歳月が流れた。果たして期待していた政策効果が現れているのだろうか？政策の成否は現場にかかっている。体育現場では果たしてどんなことが起きているのか綿密に検討しなければならないが、現実には残念極まりない。

韓国体育を支えてきたエリート体育のモデルは限界に達した。誤解はしないで！エリート体育が目指す国際競争力を放棄しようということでは決してない。体育の本質的価値が競争であるため、国家が存続する限り、体育の国際競争力を絶対に諦めてはならないというのが筆者の持論だ。

ただ、体育の国際競争力向上という不変の戦略とともに、価値と環境、そして時代の変化を積極的に反映できる新しい戦術を探すことが必要ではないかと思う。競技力という至上課題のために、これまで見過ごしてきた過程の重要性と人権や学生選手の最小限の学習権などは、もはや時代に合わせて新しく修正されるのが正しい。

かつて、韓国の体育は学校体育が土台を築いた。少数精鋭のエリート選手を学校で育成することで、韓国体育を牽引した。しかし、時代の流れと環境変化はパラダイムの変化につながるしかない。合計出生率世界最低という不名誉を考慮すれば、少数エリート中心の学校体育パラダイムはこれ以上効果を出せないことが明らかになった。

専門家なら誰でも人材プールが底をついた少数精鋭の学校体育パラダイムでは、韓国体育の未来を担保できないと断言する。それで提示された代案がまさにクラブスポーツだ。問題は2016年パラダイムシフトを通じて断行されたエリート体育と生活体育の統合モデルが果たして現場でまともに根付いているのか、そうでなければどんな代案を提示しなければならないのか考えなければならない。

大韓体育会や主務省庁である文化体育観光部が、現場がどのように動いているのか全く関心がない理由は何だろうか。大多数の体育政策が悩みと省察を通じて生まれ、提案されたわけではないためだ。政治的意図や政治工学的算法を通じて即興的に提示されるのが韓国体育政策の全般的な流れだ。政策が現場でどのように具現されるかを検討するフィードバックの過程も省略されるのが日常茶飯事だ。これがまさに韓国体育の恥ずかしい素顔に他ならない。

ところで、スポーツクラブが制度圏に入って根を下ろすことができない理由は、体育既得権の力が思ったより強いからだ。政府の政策は気にせず、スポーツクラブの制度的進入を自分たちの圏域侵入と見て、あれこれ理由を挙げてクラブ登録を巧妙に妨害するのが昨今の現実だ。特にこのような傾向は野球など人気種目でも目立つ。それも中央政府や大韓体育会の監視と影響が及ばない地方で、既得権の留勢がさらに猛威を振るっているという指摘は耳にするところだ。

新しいクラブチームの登録を容認しない方式も巧妙だ。ひとまず、あれこれの理由でけちをつけて時間を延ばして登録期日を越したり、既得権勢力同士でカルテルを形成した後、時代錯誤的な談合を通じて登録を排除する方式だ。クラブチームの登録が遅れば、現実の壁が高いと判断した保護者や学生たちが新しい文化と枠組みを備えたクラブチームへの加入を嫌がるようになり、既得権勢力は閉鎖性という強力な武器を掲げて堅固な鉄壁を築くことになる。

このような問題点が文体部や大韓体育会に伝えられる経路は複雑で難しい。体育既得権勢力には申し分ない好材料だ。もし地方でスポーツクラブに対する苦情が提起されれば、文化体育観光部～大韓体育会～種目別団体～該当種目地方団体につながる複雑な手続きと過程があるため、力のない請願人には挫折感だけが生じるだけだ。

およそ6年余りの歳月が経ったが、韓国体育の未来を導いていくクラブスポーツがまだ拡散していない理由は明らかだ。閉鎖性に慣れた体育既得権勢力の強い留勢のためだ。答えはいつものように現場にあるが、いざ監視と関心を傾けなければならない文体部と大韓体育会は手をこまねいているのが残念だ。体育既得権勢力の留勢が横行する中、体育の真の価値と健康なパラダイムシフトを夢見る革新家たちのため息はさらに濃くなるだけだ。

出典：<https://www.sportsseoul.com/news/read/1313382?ref=naver>

04 スターニュース 2023.05.15

「みんなのサッカー場、みんなのKリーグ」、1泊2日のサッカークリニック



韓国プロサッカー連盟がスペシャルオリンピック코리아と共同主催しハナ金融グループ、現代自動車グループが後援する「みんなのサッカー場、みんなのKリーグ」シーズン3が「2023 スペシャルオリンピック코리아統合サッカークリニック」を皮切りに力強いスタートを切ったと15日明らかにした。

連盟は「2023 スペシャルオリンピック코리아統合サッカークリニックは13日と14日の2日間、堤川サッカーセンターで開かれた。今回の行事には連盟とKリーグ9球団(慶南・大田・釜山・城南・仁川・全北・済州・浦項・忠南牙山)統合サッカーチームの計10チームが参加した。すべての参加チームはそれぞれスペシャル選手(発達障害者)とパートナー選手(非障害者)で構成されている」と紹介した。

行事初日にはスペシャルオリンピック코리아のイ・ヨンフン会長の開会の辞を皮切りに、お互いに親密さを築くためのレクリエーション活動とサッカーYouTuberのゴアレと共にするサッカークリニックを進行した。イベントに参加した選手団はレクリエーション活動中ずっと笑い声が絶えなかったし、サッカークリニックの時間には皆真剣な姿勢でシューティング、パス、ボールコントロールについて学んだ。野外日程

後にはスペシャル選手対象ヨガ授業、パートナー選手対象性暴力予防教育などを最後に初日の日程を終えた。

2日目には第3グループのプリーグ戦で親善試合を行った。親善試合は11人制サッカーで、スペシャル選手6人とパートナー選手5人で選抜を構成して行われた。この日の試合成績は10月に開かれる統合サッカー大会「ユニファイドカップ」の組み合わせに反映される予定だ。すべての親善試合が終了した後は閉会式、団体写真撮影を行い「2023 スペシャルオリンピックコリア統合サッカークリニック」の1泊2日間の日程が終わった。

連盟は「今回の行事を通じてすべての参加選手たちは親善試合だけでなく多様な活動を共に体験し障害者と非障害者の境界を崩し互いに一層親しくなれる契機を用意した」と伝えた。

一方、「みんなのサッカー場、みんなのKリーグ」は連盟とハナ金融グループが2020年から披露した社会貢献活動だ。シーズン1、2で移動弱者のためのKリーグ競技場案内地図を提供し、彼らの観覧環境を改善してきた。今シーズン3ではスポーツ観覧を間接支援するのにとどまらず、障害者を直接スポーツに参加させて障害者の人権向上とスポーツ底辺拡大の先頭に立つ。

今年は連盟、ハナ金融グループ、現代自動車グループが共に「みんなのサッカー場、みんなのKリーグ」シーズン3を通じて▲発達障害者と非障害者が共にする統合サッカー支援、▲統合サッカー大会「ユニファイドカップ」開催、▲統合サッカーオールスターゲーム開催、▲障害者認識改善教育など社会的企業「ハナパワーオン」、「ハナソーシャルベンチャー」と連携して障害者が主体となる多様な事業を実施する予定だ。

出典：<https://www.starnewskorea.com/stview.php?no=2023051523181629624>

05 イーデイリー 2023.05.22

コロナでソウルの過体重、肥満学生 32.1%……合間合間に体育の推進



新型コロナウイルス感染症の長期化で学生たちの身体活動萎縮が増え、ソウル地域の学生過体重・肥満比率が30%以上に増えた。これに対しソウル市教育庁は時々体育プロジェクトを推進し体力増進の先頭に立つという立場だ。

ソウル市教育庁は今月から12月まで学生たちの体力回復のために「隙間体育プロジェクト」を推進すると22日明らかにした。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックで学生たちの「巣ごもり」現象が目立ち、ソウル学生たちの過体重・肥満比率は2021年基準で32.1%で新型コロナウイルス感染症以前の2019年(26.7%)より5.4%ポイント増えた。昨年ソウル地域の小・中・高校生健康体力評価4・5等級は13.9%で、新型コロナウイルス以前の2018年9.3%より4.6%ポイント増えた。

これに対しソウル市教育庁は廊下の端・建物の間・運動場の角など隙間空間を身体活動空間として用意し朝昼・休み時間・放課後など隙間時間に学生たちがいつでも簡単に身体活動ができるようにする「隙間体育プロジェクト」を推進する。

市教育庁は学校内の空いた空間を体育活動空間として活用しようとする小・中・高200校余りを選定し空間構築費として学校当り300万ウォン余りを支援する。選定された学校は予算を通じて廊下に卓球台など

運動器具を設置したり運動場コーナーなど隙間空間にバスケットボールゴールポスト・鉄棒などを設置することができる。

ソウル市教育庁はニッチ時間を活用できるよう△遊び型身体活動プログラム 50 種△ゲーム型身体活動プログラム 48 種△スポーツ型身体活動プログラム 50 種など一人または友達と共に短い時間にできる活動プログラムを提供する。

チョ・ヒョンソウル市教育監は「学校の端っこ空間を体育活動空間にし、暇な時間に誰もが簡単に体育を楽しむようにする」として「このような小さな変化を通じて生徒たちの動きが拡大し身体活動が日常化されれば体力向上だけでなく、より幸せで健康な学校生活ができると期待する」と話した。

一方、17 市道教育庁はコロナパンデミックで落ちた生徒たちの体力を高めるために各種政策を推進している。釜山市教育庁は「朝チェンジ」プロジェクトを推進し、生徒たちの朝運動を支援している。仁川市教育庁は学生肥満予防管理実務協議会を通じて学生たちの体力増進を推進している。

出典:<https://www.edaily.co.kr/news/read?newsId=02335366635611544&mediaCodeNo=257&OutLnkChk=Y>

06 週間スポーツニュース

「嶺東郡民の日」4年ぶりの対面行事…26日、嶺東体育館一帯

<https://www.news1.kr/articles/5053986>

軍浦市、「2023年軍浦市長杯体育大会」開幕

<https://www.moneys.co.kr/news/mwView.php?no=2023052208481153295>

国民体育振興公団、地域文化遺産・資源広報のための業務協約

<https://www.starnewskorea.com/stview.php?no=2023052214052913322>

韓国体育学会、「大韓民国eスポーツ政策フォーラム」を26日に開催

<https://www.etnews.com/20230522000171>

障害者の体育活動、活気…「身体リハビリ・心理安定支援」

<https://news.kbs.co.kr/news/view.do?ncd=7680664&ref=A>

中国瀋陽総領事館「拘禁されている孫俊浩領事面談…」人権侵害はないと話した

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20230517105952097?input=1195m>

済州スポーツの有望株たち、全国舞台「挑戦」

<http://www.jejudomin.co.kr/news/articleView.html?idxno=216933>

第 17 回全国障害学生体育大会が幕を上げた

https://www.chosun.com/sports/sports_general/2023/05/16/NT7K7SEWGNQKLVFLOM27HZQI/?utm_source=naver&utm_medium=referral&utm_campaign=naver-news

忠北教育庁、学校運動部選手の人権保護強化

<https://www.news1.kr/articles/5049084>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>